

**製品名:** リン酸化 Rsk 2/MAPKAP キナーゼ 1b (Ser227) ウサギモノクローナル抗体

**カタログ番号:** AMRe87518

研究使用のみ

## 概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

## 応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	Calculated MW:84 kDa; Observed MW:84 kDa

## 抗原情報

遺伝子名	Phospho-Rsk 2/MAPKAP Kinase 1b (Ser227)
別名	CLS; RSK; HU-3; RSK2; MRX19; ISPK-1; p90-RSK2; pp90RSK2; MAPKAP1B; S6K-alpha3
遺伝子 ID	6197
SwissProt ID	P51812
免疫原	ヒト Rsk 2/MAPKAP キナーゼ 1b の Ser227 を囲む残基に対応する合成リン酸化ペプチド

## 背景

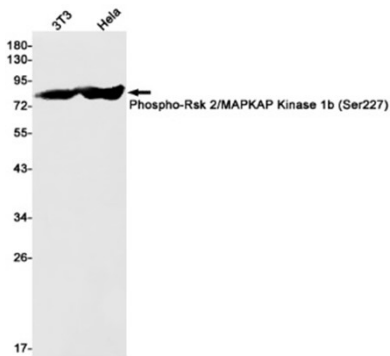
この遺伝子は、セリン/スレオニンキナーゼの RSK（リボソーム S6 キナーゼ）ファミリーのメンバーをコードしています。このキ

ナーゼは2つの異なるキナーゼ触媒ドメインを有し、マイトジェン活性化キナーゼ (MAPK) シグナル伝達経路のメンバーを含む様々な基質をリン酸化します。このタンパク質の活性は、細胞の増殖と分化の制御に関与していることが示唆されています。この遺伝子の変異は、コフィン・ローリー症候群 (CLS) と関連付けられています。[RefSeq 提供、2008年7月]

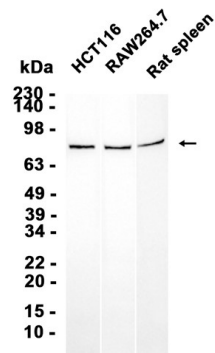
## 研究分野

-

## 画像データ



Phospho-Rsk 2/MAPKAP Kinase 1b (Ser227) 抗体 (1:1000 希釈) を使用した 3T3、HeLa 細胞溶解物中の Phospho-Rsk 2/MAPKAP Kinase 1b (Ser227) のウェスタンブロット検出。



AMRe87518 を 1:1000 で使用して、HCT116、RAW264.7 細胞およびラット筋肉組織からの抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。